

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター（奈良県保健研究センター内） *Nara IDSC*

今週の概要

- 第 46 週の感染症情報
- 全数把握対象感染症発生状況（平成 25 年 10 月）

第 46 週の感染症情報（11 月 11 日(月)～11 月 17 日(日)）

奈良県および医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	3.94	↑	→～↑	↑	↑↑
2	RS ウイルス感染症	0.88	→	→～↑	→～↓	→
3	水痘	0.47	→	→	→	↓
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.38	→	→	→～↓	↓
5	突発性発しん	0.24	→～↓	→～↓	→	↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数（45→46週）は115→92例と推移した。上位5疾患は①感染性胃腸炎（62→53例）、②RS ウイルス感染症（22→17例）、③水痘（9→9例）、④A 群溶連菌咽頭炎（5→8例）、⑤突発性発しん（6→3例）。眼科定点、基幹定点の報告はなかった。（有山 記）

県北部外来状況 咳と鼻水の感冒が多いが、寒さとともに冬型の感染症が増え始めました。嘔吐ばかりでほとんど下痢の無い例が多いが、嘔吐と下痢がある例ではノロウイルスが迅速検査で陽性に出ている。保育園児と成人にみられる。一旦減少していた鼻水と咳と熱が1日のうちで上がったたり下がったりするRS ウイルス感染症が増加してきた。インフルエンザはまだみられない。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は107例で、前週報告の94例から増加。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②RS ウイルス感染症、③水痘、④咽頭結膜熱＝A 群溶連菌咽頭炎の順。感染性胃腸炎の報告数（70例）は、増加。咽頭結膜熱の報告数（5例）は、やや増加。水痘の報告数（7例）は、横ばい。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（5例）は、ほぼ横ばい。RS ウイルス感染症の報告数（11例）は、やや減少。桜井 HC および葛城 HC 両管内基幹定点と眼科定点からの報告は、すべてなかった。（村井 記）

県中部外来状況 外来数は増加しているが、まだそう多いという程でない。鼻・咳・短期の発熱等の冬の感冒パターンが主。本日（46 週）6才女児で今シーズン当院初のインフルエンザA型があり、40℃の高熱持続。保護者の話でRS、アデノの流行はあるとの事であるが迅速陽性例はない。感染性胃腸炎はノロ様の嘔吐例、ロタ様の水様便例はあるがともに迅速は陰性。その他、水痘、流行性耳下腺炎が流行。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（45→46 週）は8→16 例と増加。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（7→11 例）、②RS ウイルス感染症（0→2 例）、③咽頭結膜熱（0→2 例）、④突発性発疹（0→1 例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況 感染性胃腸炎が増加。嘔吐中心のノロウイルス様のものや、高熱、下痢も遷延し家族内で発生、感染力の強いものなど複数の病態がみられる。また、RS ウイルス感染も増加してきた。インフルエンザの流行はまだみられない。（寺田 記）

【全数把握対象感染症発生状況（平成25年10月）】

平成25年10月に奈良県内の保健所に届出のあった全数把握対象感染症は、以下のとおりです。

10月報告患者数（平成25年11月21日現在）

類型	疾患名\保健所名	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	計
2 類	結核	7	8	3	2		4	24
3 類	腸管出血性大腸菌	1	2	4	3		1	11
4 類	デング熱			1				1
4 類	レジオネラ症			1	1			2
5 類	劇症型溶血性レンサ球菌			1				1
5 類	後天性免疫不全症候群			2				2
5 類	梅毒			1				1
5 類	風しん				1			1



感染症情報センターホームページ
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>